

別府市水道事業ビジョン (2017-2026) 概要版

I. 策定の趣旨

City Beppu

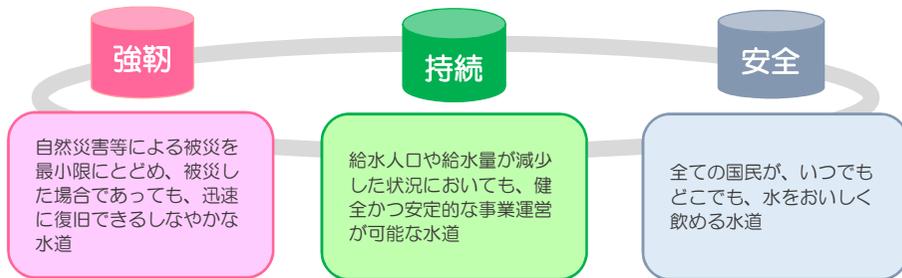
本市の水道事業は、お客さまのニーズに対応した信頼性の高い水道を次世代に継承していくため、基本的な考え方を平成21年12月に「別府市地域水道ビジョン」として策定し、安全で安心できるおいしい水を将来にわたって提供できるよう運営してきました。

本市の現状と課題は、人口減少や節水機器の普及により給水収益の減少が見込まれる一方、安全で安心できるおいしい水を供給するため、老朽化した施設の更新や耐震化が必要となり、投資費用の増高が予想されます。

また、人口の減少、施設の効率性の低下や職員数の減少、技術の継承、人材育成や熊本地震を踏まえた危機管理体制の構築など、様々な課題が想定されます。この課題に挑戦するため、50年、100年後の将来を見据えた水道事業の目指すべき姿と実現するための方向性を示した「別府市水道事業ビジョン」を今回、策定しました。

水道の理想像

■時代や環境の変化に対して的確に対応しつつ、水質基準に適合した水が、必要な量、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価をもって、持続的に受け取ることが可能な水道



50年後、100年後を見据えた水道の理想像を提示し、関係者間で認識を共有

出典：厚生労働省「新水道ビジョン」

II. 計画期間

City Beppu

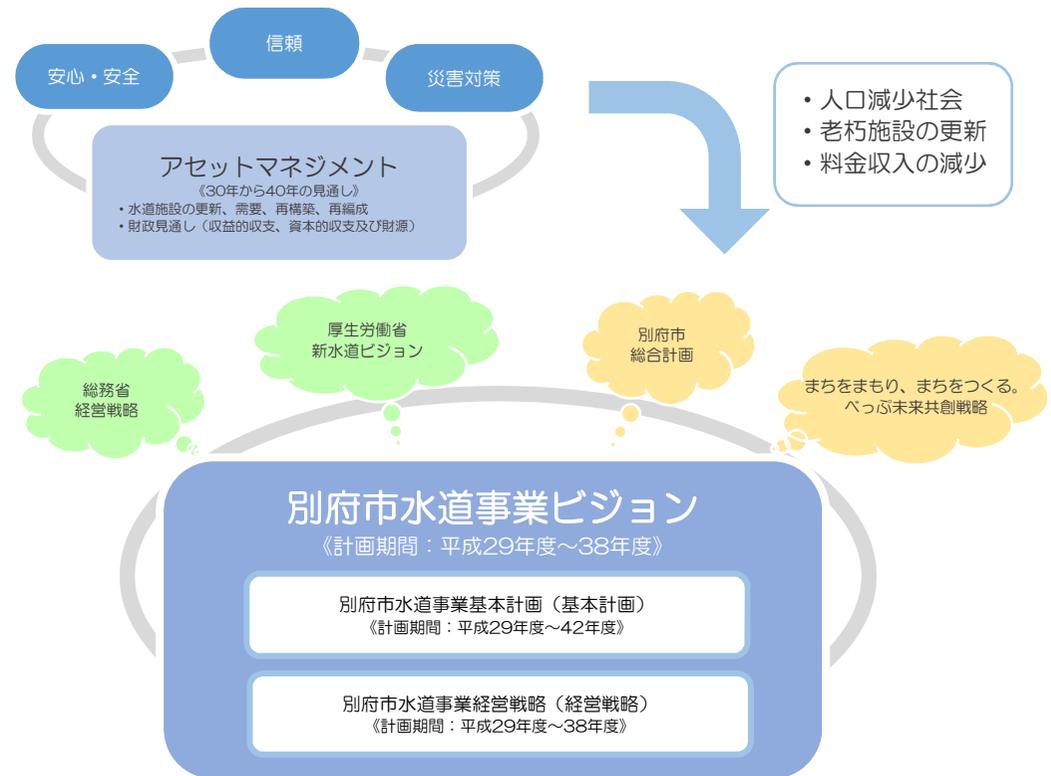
本ビジョンの計画期間は、平成29年度から平成38年度までの10年間とします。

H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
第1期 中期経営計画					第2期 中期経営計画				
					フォローアップ				

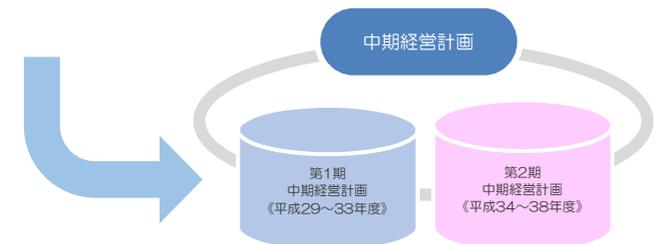
III. 位置付け

City Beppu

本ビジョンは、「別府市総合計画」及び「まちをまもり、まちをつくる。べっぴん未来共創戦略」との整合性を保ち、厚生労働省の「新水道ビジョン」及び総務省の「経営戦略」の趣旨を踏まえ、平成29年度から実施される「別府市水道事業基本計画」をベースに策定しています。



- ・計画人口
- ・需要計画
- ・給水収益（水道料金収入）計画
- ・建設改良事業計画
- ・企業債
- ・組織機構の見直し
- ・職員数
- ・財政計画



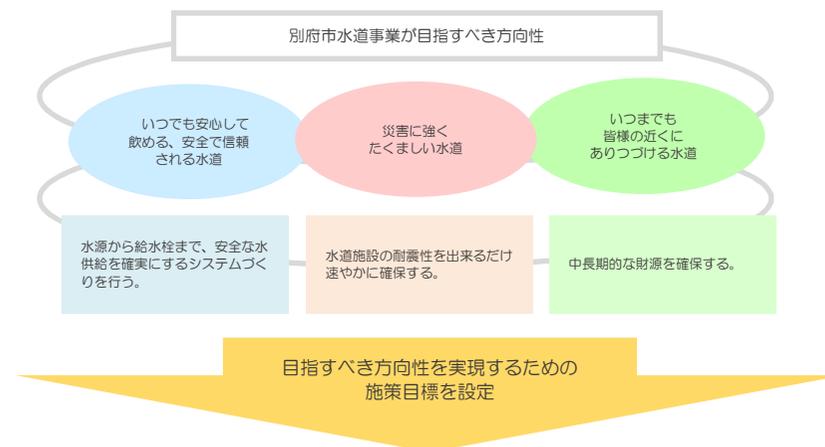
分類	課題	分類	課題
給水区域	給水区域内の標高差が大きく、安定した水供給を行うためには加圧・減圧設備や配水池等の配水施設を効率よく配置する必要があるとともに、その施設の運転管理に高度な技術が必要であります。	事故・災害対策	給水拠点における応急給水設備の組立てや、市民へ広く応急給水操作方法の周知を行うなど、防災力の強化が必要であります。また、応急給水設備の費用負担について市との調整が必要であります。
水源	湧水では、扇山浄水場の水源である蔵人水源の取水能力が低下傾向にあります。地下水では湯山、タタラ、扇山第1、大石原の4水源で、取水能力が若干の低下傾向にあり、その対策が必要であります。	お客さまサービス	市民サービス向上のため、お客様の様々なニーズに迅速にお応えするための方策が必要であります。
配水施設	構造物、設備及び管路の全てを法定耐用年数で更新した場合の更新費用は、40年間で合計804.7億円の見込みになります。そのため年間平均事業費は20.1億円となり財政収支を圧迫することが想定され、その対策が必要であります。	組織・機構	効率的かつ機能的な組織機構の再構築により、安全で安心できる水の安定供給の持続に向けた経営の健全化を図るため、「別府市水道局経営健全化実施計画」に沿って、経営基盤の強化を図ることが必要であります。
給水装置等	貯水槽水道管理者の自主努力を促すとともに、どれだけ指導できるかが課題となります。また、病院や災害時の水の確保として貯水槽水道は重要ですが、利用者への水の安全性の視点から、直結給水方式の要件見直しも必要となります。	水需要の推移	年々人口が減少し、また節水機器の普及等から、需要が減少し水道料金収入が減少しており、水需要の促進が必要であります。
鉛管対策	鉛管取替箇所が点在していることによる工事施工の効率性が低下し、完了年度の遅れが懸念されることから、その対策が必要であります。	財政状況	水道料金収入が減少していくと純利益が減少し、その結果財源が不足することから、その対策が必要であります。



安心安全な水を、いつまでもお客さまのもとへ

これからの水道は、人口減少や施設の老朽化などの水道を取り巻く時代や環境の変化に的確に対応しつつ、50年、100年先を見据えた、いつでも、どこでも、誰でも安心して利用し続けることを可能とすることを理想像とします。

この理想像を「安全」、「強靱」、「持続」の3つの観点で表現し、それぞれを「いつでも安心して飲める、安全で信頼される水道」、「災害に強く、たくましい水道」、「いつまでも皆様の近くにありつづける水道」と定めます。



分類	目標設定
安全	適切な浄水処理を実施し、より安全な水を供給する。
	水源汚染リスク軽減のため、水質改善や水質監視・水質異常時の対応などの取組みを推進する。
	すべての小規模貯水槽の設置者に対する適切な指導を実施する。
	給水装置に対する安全性を高め、給水工事の事故を減少させる。
	鉛製給水管を解消する。
強靱	災害時の応急給水活動体制を構築する。
	すべての基幹施設の必要な耐震性を確保する、又、他の水道施設の更新に向けた取組みを計画的に実施する。
	耐震化事業の必要性、応急給水拠点や給水方法に関する市民の理解度を向上させる。
	漏水防止対策（有収率向上対策）を積極的に推進する。
持続	近隣水道事業者と実現可能な範囲から広域化の検討を行う。
	効率的で持続可能な事業運営のための民間活力を導入する。
	水道未普及地域に対し、技術協力を行う。
	水道施設の更新に合わせ、将来の水需要を見据えた効率的な施設の配置と再構築を行う。
	収入の増収と経費の節減を実施し、収支状況の改善を行う。
	人材育成を積極的に推進し、職員の技術力、組織力を強化する。
	水道サービスに関する新しい知見及び情報の収集、整理を行う。

別府市水道事業ビジョンを実効性のある計画とするため、アクションプランとして「中期経営計画」を策定し、これに基づく事業実施の中で、必要に応じて本ビジョンを改訂します。

なお、本ビジョンの計画期間は2017（平成29）年度から2026（平成38）年度までの10年間のため、5年間に期間とした「第1期 中期経営計画」と「第2期 中期経営計画」を策定し、計画の実行とフォローアップの実施を行っていきます。

進捗状況の管理は、「中期経営計画」で具体的に記載した計画（Plan）を基に、実行（Do）し、達成度を評価（Check）し、改善（Action）するPDCAサイクルを活用していきます。

